

每月三日六日九日十二日十五日十八日廿一日廿四日廿七日三十日十四發行

縣報 第三百廿八號

明治三十七年六月六日 和歌山縣

公文

○和歌山縣告示第百五十一號

左記ノ通り狩獵免狀遺失ノ旨届出タリ

明治三十七年六月二日

和歌山縣知事 伯爵 清 榎 家 教
和歌山縣西牟婁郡串本町九百八十五番地
小 川 潔

一乙種狩獵三等免狀

第一七一號

明治三十六年十月十五日下午付

右明治三十七年一月中東牟婁郡古座町ニ於テ遺失ス

○和歌山縣告示第百五十二號

伊都郡橋本町大字東家七十七番地

開業産婆

右今般和歌山縣有田郡湯淺町大字湯淺五百三十一番地ニ轉住ノ旨ヲ以テ訂正届出ニ付本日

和歌山縣産婆名簿ヲ訂正ス

縣報第三百二十八號 明治三十七年六月六日 第三種郵便物認可

明治三十七年六月二日

○和歌山縣告示第百五十三號

和歌山縣知事 伯爵 清 榎 家 教

有田郡湯淺町大字湯淺八百八十七番地

開業産婆

右者今般婚姻ノ旨ヲ以テ取消届出ニ付本日和歌山縣産婆名簿ノ登録ヲ取消ス

明治三十七年六月二日

○和歌山縣告示第百五十四號

畜牛結核病豫防法第一條ニ依リ左ノ期間ニ於テ畜牛ノ検査ヲ行フ

但検査ノ日時及場所ノ細別ハ所轄警察官署之ヲ指定ス

明治三十七年六月四日

和歌山縣知事 伯爵 清 榎 家 教

區 域	檢 査 期 間	日
伊 都 郡	從八月五日至八月十六日	十二日 間
那 賀 郡	從八月十七日至九月九日	二十四日 間
和 歌 山 市	從九月十日至十月一日	二十二日 間
海 草 郡	從十月二日至十一月三日	三十日 間
有 田 郡	從十一月四日至十一月十七日	十四日 間

日高郡	從十一月十八日至十二月二日	十五日
西牟婁郡	從十二月三日至十二月二十四日	二十二日
東牟婁郡	從明治卅六年一月一日至全年一月三十日	十六日

○町村長及助役ノ異動

西牟婁郡稻成村長
 右六月一日認可
 有田郡津木村助役
 右六月二日認可

榎本 多米造
 椎崎 角兵衛

○觀測

明治三十七年六月一日ヨリ三日間當地氣象概況

月日	六月一日		六月二日		六月三日	
	前年	本年	前年	本年	前年	本年

平均氣壓	七七五五耗七	七六〇耗〇	七五三耗五	七六一耗五	七五二耗三	七五八耗六
平均氣溫	二二度八	一九度九	一八度四	二〇度八	二二度五	二二度三
最高氣溫	二七度二	二三度五	二〇度〇	二六度三	二七度〇	二七度〇
最低氣溫	一八度五	一五度七	一四度八	一四度二	一八度九	一五度六
最多風向	南西	西南西	北々西	南々西	西北西	南
平均風力	三米五	三米八	一米三	四米八	三米一	五米四
天氣	半晴小雨	晴	雨又曇	晴	晴	晴
雨量	五耗九	〇耗〇	四耗一	一	〇耗九	一
記事	午后時々微雨	午前三時十分ヨリ十分間微雨	終日時々降雨ス	月暈アリ	前夜來ノ降雨午前二時十分歇	月暈アリ 午後十時半ヨリ夜半過ぎ時々微雨

縣報第三百二十八號 明治三十七年六月六日 第三編郵便物部 二

可認物便郵種三第日八月五年三十三治明

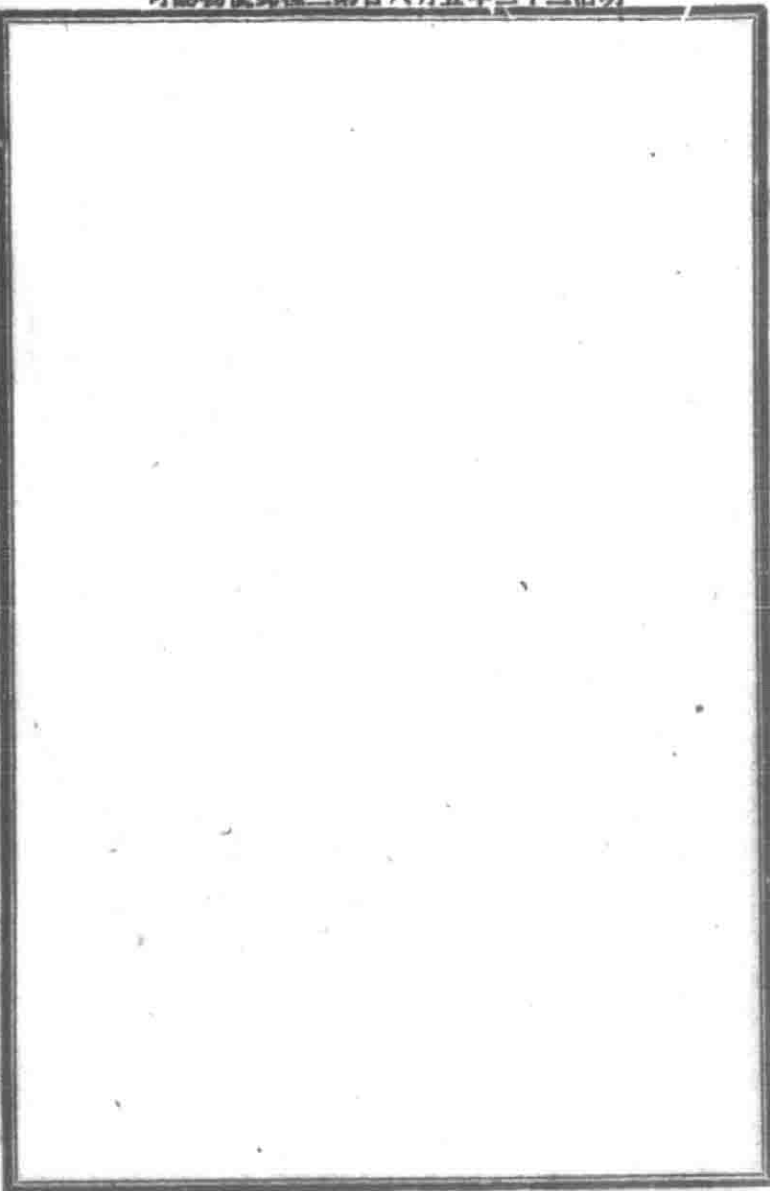
(毎月三日六日九日十二日十五日十八日二十一日二十四日二十七日三十日十回發行)

明治三十七年六月五日印刷
明治三十七年六月六日發行

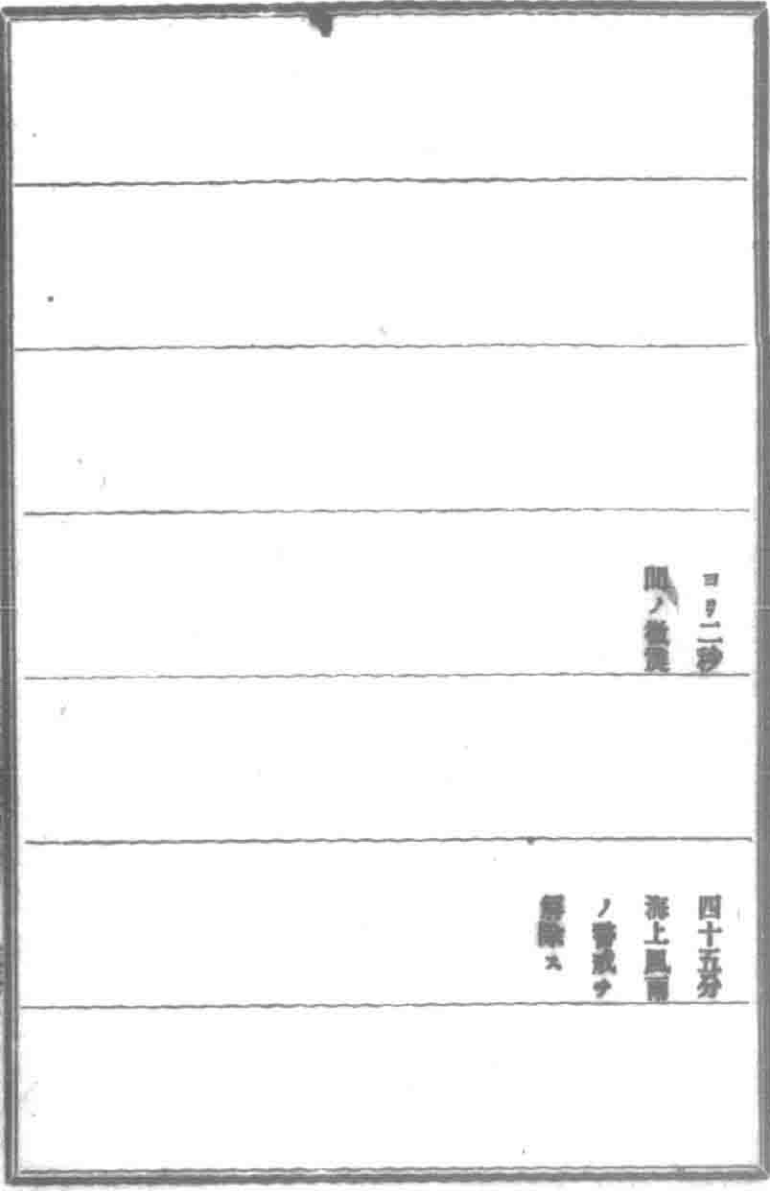
(金銀紙)

和歌山縣

和歌山市久保町一丁目一番地
印刷所 和歌山市久保町一丁目一番地
印刷所 和歌山市久保町一丁目一番地
印刷所 和歌山市久保町一丁目一番地



郵種三百二十八號 明治三十七年六月六日 第三種郵便物認可 三終



○和歌山縣令第三十二號

宿屋營業取締規則左ノ通り改正ス

明治三十七年六月一日

和歌山縣知事

伯爵

清 兼 家 敬

宿屋營業取締規則

第一條 宿屋營業トハ旅人宿、下宿屋及木賃宿ヲ營業トスルモノヲ云フ

第二條 宿屋營業ヲナサントスル者ハ左ノ各項ヲ具シ所轄警察官署ニ願出テ許可ヲ受ケ
ヘシ支店ヲ設ケントスル者及營業所ヲ變更セントスル者亦同シ

- 一 族籍、住所、氏名及生年月日
 - 二 營業ノ種別及場所
 - 三 商號又ハ屋號
 - 四 前住所
 - 五 營業所周圍ノ略圖、建物配置平面圖(間取共)及敷地ノ坪數
坪數間取其ノ他一部ノ變更ノ場合ニ限リ前項第五號ノ圖面ハ其ノ部分ヲ詳ニシタル圖面
ヲ以テ足ル
- 第三條 左記各項ニ該當スルモノハ營業者又ハ其ノ營業管理人タルコトヲ得ス
- 一 秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ所爲アリト認メラル、者
 - 二 本則ヲ遵守スル能力ナシト認メラル、者
 - 三 強窃盜、詐欺取財ノ罪、淫褻姦淫ノ罪、受寄財物ニ關スル罪、贓物ニ關スル罪、賭

博ノ罪ヲ犯シテ處刑セラレタル者及本則ニ依リ營業許可ヲ取消セラレタル者但悔改ノ情
著シキ者ハ此限リニアラス

四 被監視中ノ者

許可ノ後前各號ニ該當スル事由ヲ生シタルトキハ警察官署ニ於テ其ノ許可ヲ取消シ又ハ
其ノ營業ヲ停止スヘシ

第四條 營業用ノ建物ハ警察官署ノ検査ヲ經ルニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

第五條 左ノ事項ハ其ノ事實ノ生シタル日ヨリ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ但死
亡、失踪又ハ逃亡ノ場合ニ於テハ戶主、役見人相續人其ノ他ノ最近親族ニ於テ其ノ手續
ヲナスヘシ

一 族籍、住所、氏名及商號又ハ屋號ヲ變更シタルトキ

二 三日以上休業セントスルトキ

三 廢業死亡失踪又ハ逃亡シタルトキ

四 營業所ヲ他ノ警察管轄内ヘ移轉シタルトキ

前項三、四ノ場合ニ於テハ其ノ届出ト同時ニ許可証ヲ返納スヘシ

第六條 支店ヲ設ケタルモノ又ハ事故ノ爲メ自ラ其ノ營業ニ從事セザルモノハ營業管理人ヲ
定メ其ノ族籍、住所、氏名、生年月日及前住所ヲ具シテ所轄警察官署ニ願出テ許可ヲ受
シヘシ

營業管理人ハ營業者ニ代テ其ノ責ニ任スヘシ

第七條 相續其ノ他ノ事由ニ依リ營業ノ繼承ヲナシントスルモノハ其ノ族籍、住所、氏名、生年月日及前任所ヲ具シ所轄警察官署ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

讓受ノ場合ニ於テハ讓渡人家督相續ノ場合ニ於テハ生存被相續人前項ノ願書ニ連署スヘシ

第八條 數回ノ處刑ヲ受クルモ尙本則ヲ遵守セザル者ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ營業ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ

第九條 營業上ニ使用スル男女ヲ雇入レタルトキハ五日以内ニ其ノ族籍、住所、氏名、生年月日前任所及前職業ヲ所轄警察官署ニ届出ツヘシ其解雇シタルトキ亦之ニ準スヘシ但一週間以内ノ臨時雇ハ此限リニアラス

第十條 營業者及其ノ營業管理人ハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

一 宿泊料ノ定額ハ客ノ見易キ場所ニ揭示スルコト但警察官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ特ニ英文ヲ以テ記載セシムルコトアルヘシ

二 客引行爲ヲ爲スヘカヲサルコト

三 宿泊料ノ抵償トシテ客ノ物品ヲ收受シ若クハ預リ置カントスルトキハ所轄警察官吏ノ承認ヲ受クルコト

四 宿泊人ニ遊興ヲ勤メ又ハ宿泊料以外ノ金額ヲ得ル目的ヲ以テ客ノ需メナキ食物ヲ供スヘカヲサルコト

五 客ニ面會ヲ求メ又ハ通信ヲナス者アルトキハ速ニ之ヲ取次キ隠蔽スヘカヲサルコト

六 正當ノ事由ナクシテ宿泊ノ求メヲ拒絶スヘカヲサルコト

七 客ヨリ其ノ携帶品ノ買入賣却等ノ依頼ヲ受ケタルトキハ直ニ所轄警察官吏ニ申告スルコト

八 定員以上一室ニ合宿セシムヘカヲサルコト但客ノ承諾アリタルトキハ此限リニアラス

九 客ノ意ニ反シテ他人ヲ同室セシムヘカヲサルコト

十 宿泊人疾病ニ罹リタルトキハ醫藥、食物等ノ需メニ應ジ懇切ニ取扱ヒ若シ傳染病ノ疑アルトキハ即時所轄警察官吏ニ申告スルコト

十一 客ノ爲メニ立替ヘキ車賃、船賃等ハ定額ヲ超ユヘカヲサルコト

十二 客ノ遺留品ハ確實ニ保管シ送還ノ手續ヲナスヘシ若シ送還シ能ハサルトキハ速ニ所轄警察官吏ニ届出ツルコト

十三 客ノ需メザル商人等ヲ客室ニ入ラシムヘカヲサルコト

十四 便所ハ清潔ニ洒掃シ時々防臭劑ヲ投ヘキコト

十五 糞車ハ、渡船ノ發着時刻ヲ詐リ客ニ迷惑セシムル等ノ行爲アルヘカヲサルコト

十六 客ニシテ身分不相應ノ金品ヲ所持シ又ハ不審ト認ムルモノハ速ニ所轄警察官吏ニ申告スルコト

十七 寢具類ハ時々日光消毒法ヲ行フコト

十八 不潔ナル夜具、敷物其ノ他ノ器具ヲ使用スヘカヲサルコト

十九 藪藪又ハ酌量シ寄寓セシムヘカヲサレコト
二十 肺結核其ノ他人ノ感染スヘキ病症アルモノハ客ヲ接遇シ又ハ飲食物ノ調理ヲ爲スヘカヲサレコト

廿一 宿泊人外出シ三日ヲ經テ其ノ所在不明ナルトキハ速ニ所轄警察官吏ニ申告スルコト

第十一條 營業者ハ宿泊人名簿ヲ備ヘ左ノ各號ヲ詳細登記シ警察官吏ノ点檢ニ供スヘシ若シ旅行免狀ヲ要スル外國人ナルトキハ其ノ免狀寫ヲ添付スヘシ

一 本籍又ハ國籍、身分、職業、住所氏名、生年月日

二 到着ノ月日時及前夜宿泊地

三 旅行ノ事由

四 親族ノ同行者アルトキハ其ノ續柄

宿泊人届ハ別紙第一様式ニ依リ前項各號ヲ具シ當日内ニ所轄警察官署又ハ巡查駐在所、派出所ニ届出ツヘシ但夜間十二時後ノ宿泊人ハ當日午前九時迄ニ届出ツヘシ

警察官署、巡查駐在所、派出所ヨリ十五町以上隔リタル地ノ營業者ハ前項ノ届出ハ候簿ヲ以テナスコトヲ得但巡查駐在所ヨリ二十町以上隔リタル地ニ在リテハ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケ一週間毎ニ届出ヲナスコトヲ得

警察官吏ノ檢閱ヲ受ケタルトキハ前項ノ届出ヲ要セス

第十二條 宿泊人外國人ナルトキハ其ノ届出ヲ要スル事項ヲ告ケテ之ヲ宿泊人名簿ニ記載セ

シムヘシ

記載ヲ要スル事項ハ原文ヲ以テ記シ置キ之ヲ示スヘシ

第十三條 宿泊人届發届ハ別紙第二様式ニ依リ速ニ所轄警察官署又ハ巡查駐在所派出所ニ届出ツヘシ

本條ノ場合ニ於テモ亦第十一條第三項第四項ヲ準用ス

第十四條 宿泊人名簿ハ餘白ヲ置カス順次記入シ誤記アルトキハ之ヲ訂正シ其ノ紙數ヲ除却スヘカラス但使用ノ後滿意ケ年間保存スヘシ

第二章 旅人宿

第十五條 旅人宿トハ一定ノ宿泊料ヲ受ケテ人ヲ宿泊セシムルモノヲ云フ

第十六條 旅人宿ハ客室十坪以上ヲ有スル家屋ニアラサレハ營業スルコトヲ得ス但土地ノ狀況ニ依リ斟酌スルコトアルヘシ

第十七條 客室ノ構造、裝置及設備ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一 客室ハ光線ノ取り方及空氣ノ流通ヲ完全ニスルコト

二 二階以上ノ客席ニシテ十五坪以上アルモノハ適當ナル場所ニ幅三尺以上ノ梯子二個以上ヲ設クルコト

三 便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハサル場所ニ設ケ屎尿池ハ石葺陶器等ヲ以テ造リ其ノ周圍ハ糞喰葎又ハ石葺トナスコト

四 客室ハ顧客一人ニ付一坪半ヲ下ルヘカヲサレコト但同行者ハ此限リニアラス

五 客室ノ入口ニハ室ノ番號定員ヲ揭示スルコト
 六 客用ノ夜具ハ清潔ナル白地ノ敷布、掛簾ヲ用ヒ枕ハ白布ヲ以テ包ムコト

第三章 下宿屋

第十八條 下宿屋トハ賄料、座敷料ヲ受ケテ人ヲ宿泊セシムルモノヲ云フ
 第十九條 宿泊人ノ族籍及氏名ハ之ヲ店頭若クハ門戸ニ掲出スヘシ
 第二十條 本則第十七條第一號乃至第五號ノ規定ハ下宿屋ニモ亦之ヲ適用ス

第四章 木賃宿

第二十一條 木賃宿トハ賄ヲ爲サス木賃其ノ他ノ諸費ヲ受ケテ人ヲ宿泊セシムルモノヲ云フ

第二十二條 本則第十七條第一號第二號ノ規定ハ木賃宿ニモ亦之ヲ適用ス
 營業者ハ宿泊人外泊簿ヲ備ヘ置キ客人ニ外泊セシ者アルトキハ之ヲ記載スヘシ

第五章 罰則

第二十三條 本則ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
 前項ノ制裁ハ何人ノ所爲ト雖モ營業者又ハ營業管理人ニ科ス

附則

第二十四條 既設ノ宿屋營業者ニシテ本則ニ抵触スルモノハ來ル六月三十日迄ニ本則ニ依リ相當手續ヲ爲スニアラサレハ許可ノ効ヲ失フヘシ

第一號様式(用紙美濃紙)

明治	年	月	日	宿泊人届	旅人宿	市郡	村大字	番地
					(下宿屋)			
					氏名			
					氏名			
					生年月日			
					所			
					職			
					業			
					住			
					族籍又ハ國籍			
					身			
					分			
					職			
					由			
					宿泊地			
					事			
					夜			
					旅行ノ			
					前			
					到			
					着			
					ノ			
					月			
					日			
					時			
					分			
					前			
					後			

記入例

- 一 族籍又ハ國籍ノ欄ニハ内國人ナルトキハ族籍、外國人ナルトキハ國籍ヲ記スヘシ
- 一 外國人ニシテ帝國内ニ居住チ有セザル者ニ關シテハ外國ニ於ケル住所ヲ記載スヘシ
- 一 宿泊人親族ノ全行者續柄ハ氏名ノ傍ヲニ妻又ハ長男次女若クハ甥姪ト記入スヘシ
- 一 華族、文武官吏、帝國會議議員、府縣會議議員、外國公使館員、領事館員、官立府縣立學校教員ハ其ノ爵位、官、職氏名ノニ記載スルコトヲ得

一 軍隊ハ其ノ隊名、指揮官ノ官職、氏名及其ノ人員ヲ記載シ教員、役員等ノ引率セル學校生徒ハ其ノ校名、引卒者ノ氏名及人員ヲ記載シ他ヲ省略スルコトヲ得

第二號様式(用紙美濃紙)

明治	年	月	日	宿泊人出發屆	旅人宿	郡	市	村大字	番地
					(木質宿)			町	
					氏			氏	名印
					地			氏	名
					行			先	
					月日時			月日時	
					到着セシ			出發ノ	
					午前			午後	
					時分			時分	

○和歌山縣令第三十三號
料理屋及飲食店營業取締規則左ノ通り相定ム

明治三十七年六月一日

和歌山縣知事 伯爵 清 榎 家 教

料理屋及飲食店營業取締規則

- 第一條 料理屋及飲食店營業ヲナサントスル者ハ左ノ各項ヲ具シ所轄警察官署ニ願出テ許可ヲ受クヘシ支店ヲ設ケントスル者及營業所ヲ變更セントスル者亦同シ
- 一 族籍住所氏名及生年月日
 - 二 營業ノ場所
 - 三 營業用家屋ノ平面圖
 - 四 商號又ハ屋號
 - 五 前住所
 - 六 妻及未成年者ニアリテハ民法ノ規定ニヨリ許可ヲ與ヘタル者ノ連署
- 第二條 左記各項ニ該當スルモノハ營業者又ハ其ノ營業管理人タルコトヲ得ス
- 一 秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ所爲アリト認メラル、者
 - 二 本則ヲ遵守スル能力ナシト認メラル、者
 - 三 強窃盜、詐欺取財ノ罪、猥褻姦淫ノ罪、受寄財物ニ關スル罪、贓物ニ關スル罪、賭博ノ罪ヲ犯シテ處刑セラレタル者及本則ニ依リ營業許可ヲ取消サレタル者但後改メ情著シキ者ハ此限リニアラス
 - 四 被監視中ノ者
- 許可ノ後前各號ニ該當スル事由ヲ生シタルトキハ警察官署ニ於テ其ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ營業ヲ停止スヘシ

第三條 營業用ノ建物ハ警察官署ノ檢査ヲ經ルニテ使用スルコトヲ得ス

第四條 左ノ事項ハ其ノ事實ノ生シタル日ヨリ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ但死亡失踪又ハ逃亡ノ場合ニ於テハ戶主後見人相続人其ノ他ノ最近親族ニ於テ其ノ手續ヲ爲スヘシ

- 一 族譜、住所、氏名及商號又ハ屋號ヲ變更シタルトキ
- 二 廢業、死亡、失踪又ハ逃亡シタルトキ

三 第八條ノ雇婦ヲ解雇シ若シクハ家族ノ婦女ヲシテ客ヲ接遇セシムルコトヲ停止シ又ハ其ノ死亡若シクハ逃亡シタルトキ

四 營業所ヲ他ノ警察管轄内ニ移轉シタルトキ

第五條 支店ヲ設クルモノ又ハ事故ノ爲メ自ラ其ノ營業ニ從事セサルモノハ營業管理人ヲ定メ其ノ族籍、住所、氏名、生年月日及前住所ヲ具シ所轄警察官署ニ届出テ許可ヲ受クヘシ

營業管理人ハ營業者ニ代テ其ノ責ニ任スヘシ

第六條 相續其ノ他ノ事由ニ依リ營業ノ繼承ヲ爲サントスルモノハ其ノ族籍、住所、氏名、生年月日及前住所ヲ具シ所轄警察官署ニ届出テ許可ヲ受クヘシ

讓受ノ場合ニ於テハ讓渡人家督相續ノ場合ニ於テハ生存被相續人前項ノ願書ニ連署スヘシ

第七條 數回ノ處罰ヲ受クルモ尙本則ヲ遵守セサルモノハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ營業ノ停止

止テ命スルコトアルヘシ

第八條 營業用ノ爲メ婦女ヲ雇入レントスルトキハ其ノ族籍住所氏名生年月日前住所及前職業ヲ具シ所轄警察官署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ家族ノ婦女ヲシテ客ノ接遇ニ從事セシメントスルトキ亦之ニ準スヘシ但酌婦ノ雇入ハ此限リニアラス

第九條 營業者及其ノ營業管理人ハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

一 密賣淫ニ關スル罪ニ依リ處刑セラレタル者又ハ藝妓、酌婦營業取締規則第五條ニ該當スル婦女ヲ同居セシメサルコト

二 藝妓ヲ寄寓若シクハ宿泊セシメサルコト

三 藝妓ニアラサルモノヲシテ之ニ紛ハシキ所業ヲナシメサルコト

四 夜間拾貳時後ハ歌舞音曲其ノ他喧擾ニ涉ル所業ヲナシシメサルコト

五 濫リニ飲食遊興ヲ勸メ又ハ客ノ需メナキ酒肴ヲ供スヘカラサルコト

六 客ヲ宿泊セシムヘカラサルコト但警察官吏ノ承認ヲ得タルトキハ此限リニアラス

七 客ニ面會テ求メ又ハ通信ヲナスモノ等アルトキハ速ニ取次クヘキコト

八 飲食又ハ遊興料ノ抵價トシテ客ノ物品ヲ收受シ若シクハ預リ置カントスルトキハ所轄警察官吏ノ承認ヲ受クルコト

九 客ヨリ携帶品ノ質入、賣却等ノ依頼ヲ受ケタルトキハ直ニ所轄警察官吏ニ申告スルコト

十 客ノ疾病ニ罹リタルトキハ醫藥食物等ノ需メニ應ジ懇切ニ取扱ヒ若シ傳染病ノ疑アリ

ルトキハ即時所轄警察官吏ニ申告スルコト

十一 客ノ爲メニ立替ヘ支拂スヘキ車賃船賃等ハ定額ヲ超ユヘカラサルコト

十二 客ノ遺留品ハ確實ニ保管シ送還ノ手續ヲ爲スヘシ若シ送還シ能ハサルトキハ速ニ所轄警察官吏ニ届出ツルコト

十三 客ニシテ身分不相應ノ金品ヲ所持シ又ハ不審ト認ムルモノハ速ニ所轄警察官吏ニ申告スルコト

十四 肺結核其ノ他人ノ嫌疑スヘキ病症アル者ハ營業ニ従事スヘカラサルコト

十五 酌婦ニアラサルモノヲシテ客ノ接遇ニ従事セシメサルコト

第十條 營業組合ヲ設クントスルモノハ規約及代表者ヲ定メ所轄警察官署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ

第十一條 待合茶屋芝居茶屋遊船宿等ノ名義ノ如何ニ拘ラス客席ヲ設ケテ客ニ酒肴ヲ供スル營業者ハ料理屋ト見做レ本則ヲ適用ス

料理屋ニシテ仕出シノモヲ爲ス者飲食店ニシテ煮賣ノミヲ爲ス者ハ本則ヲ適用セス

第十二條 本則ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

前項ノ制裁ハ何人ノ所爲ト雖トモ營業者又ハ營業管理人ニ科ス

附 則

第十三條 本則ハ明治三十七年七月一日ヨリ施行ス但第九條第二號ハ來ル十二月三十一日迄其ノ施行ヲ延期ス

○和歌山縣令第三十四號

藝妓及酌婦營業取締規則左ノ通り相定ム

明治三十七年六月一日

和歌山縣知事

伯爵

清 棲 家 致

藝妓及酌婦營業取締規則

第一條 本則ニ於テ藝妓ト稱スルハ客ノ需メニ應シ酒席ニ於テ歌舞音曲其ノ他ノ遊藝ヲ爲スル營業トスルモノヲ云ヒ酌婦ト稱スルハ酒席ノ酌ニ従事スル營業トスルモノヲ云フ

第二條 藝妓酌婦ノ營業ヲ爲サントスルモノハ左ノ各號ヲ具シ所轄警察官署ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

一 族籍、住所、氏名、生年月日及藝名アルモノハ其藝名

二 戸籍謄本

三 未成年者ナルトキハ戸主又ハ後見人并ニ親權ヲ行フ父又ハ母其ノ父母共ニアヲサルトキハ最近親族ノ連署

四 有夫ノ婦ナルトキハ夫ノ連署

五 健康診斷書

第三條 警察管轄ヲ異ニスル地ニ移轉セントスルトキハ即日其許可証ヲ返納シ移轉先地ニ於テハ更ニ前條ノ手續ニ依ルヘシ

第四條 左ノ事項ハ其ノ事實ノ生シタル日ヨリ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出テ許可証ヲ返納シ又ハ書換若クハ再渡ヲ請フヘシ但シ死亡又ハ逃亡ノ場合ニ於テハ戸主後見人、相

返納シ又ハ書換若クハ再渡ヲ請フヘシ但シ死亡又ハ逃亡ノ場合ニ於テハ戸主後見人、相

贖人其ノ他ノ最近親族又ハ置屋營業者若クハ家主ニ於テ其ノ手續ヲ爲スヘシ

一 族籍住所氏名及藝名ヲ變更シタルトキ

二 許可証ヲ亡失毀損又ハ汚損シタルトキ

三 廢業死亡又ハ逃亡シタルトキ

第五條 左ノ各項ニ該當スルモノハ藝妓又ハ酌婦營業者タルコトヲ得ス

一 盜罪賭博罪、拐帶罪、及密賣淫ニ關スル罪ニ依リ刑ニ處セラレタル者但檢改ノ情著シ

キモノハ特ニ許可スルコトアルヘシ

二 被監視中ノ者

三 風俗ヲ害スル行爲アリト認メラル、者

四 肺結核其ノ他人ノ嫌疑スヘキ病症アル者

許可ノ後前各項ニ該當スル事由ヲ生シタルトキハ警察官署ニ於テ其許可ヲ取消シ又ハ其

ノ營業ヲ停止スヘシ

第六條 營業者ハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

一 營業中ハ許可証ヲ携帯スルコト

二 許可証ハ他人ニ貸與スヘカラサルコト

三 營業先ニ於テ宿泊スヘカラサルコト但疾病其ノ他止ムヲ得ス宿泊セントスルトキハ

所轄警察官吏ニ届出ツヘシ

四 藝妓ノ花代金額ハ豫メ警察官署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セントスルトキ亦

同シ

五 夜間十二時後客席ニ侍スヘカラサルコト

六 雇人周旋營業者若クハ密賣淫ニ關スル罪ニ依リ處刑ヲ受ケタルモノ、家ニ寄寓セザ

ルコト

七 藝妓ハ宿屋、料理屋又ハ飲食店ニ寄寓スヘカラサルコト

八 自宅又ハ他家ニ於テ遊客ト同宿スヘカラサルコト

九 何等ノ名義ニ拘ハラシ客ニ對シ定額外ノ金錢又ハ物品ヲ請求スヘカラサルコト

十 宿泊ヲ要スル旅行ヲ爲セントスルトキハ其ノ行先地ヲ詳カニシテ所轄警察官吏ニ届

出テ且第三號但書ノ届出ヲ爲スコト

十一 酌婦ハ遊藝稼業ヲ兼ムルヲ得ス又客席ニ於テ歌舞音曲其ノ他ノ遊藝ヲナスヘカラ

サルコト

第七條 本則ニ違犯シタルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス

附 則

第八條 本則ハ明治三十七年七月一日ヨリ施行ス但第六條第七號ハ來ル十二月三十一日迄

其ノ施行延期ス

○和歌山縣令第三十五號

藝妓置屋營業取締規則左ノ通り相定ム

明治三十七年六月一日

和歌山縣知事 伯爵 清棲 家 敬

藝妓置屋營業取締規則

第一條

藝妓置屋營業トハ藝妓ヲ寄寓セシムルヲ以テ營業トスルモノナラズ

第二條

藝妓置屋營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ各項ヲ具シ所轄警察官署ニ願出テ許可ヲ受ケ
クヘシ支店ヲ設ケントスル者及營業所ヲ變更セントスル者亦同シ

一 換籍住所氏名及生年月日

二 營業所

三 營業用家屋ノ平面圖

四 商號又ハ屋號

五 前住所

第三條 料理屋及飲食店營業取締規則第三條乃至第七條ノ規定ハ藝妓置屋營業者ニモ亦之

ヲ準用ス

第四條

營業者又ハ其ノ營業管理人ハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

一 密淫賣ニ關スル罪ニ依リ處刑セラレタル者及藝妓酌婦營業取締規則第五條ニ該當ス

ル者ヲ同居セシメサルコト但藝妓ニシテ營業停止中ノ者ハ此限リニアラス

二 雇人周旋營業ヲ兼業スヘカラザルコト

三 遊客ヲ宿泊セシムヘカラザルコト

四 料理屋飲食店ニ紛ハシキ行爲ヲ爲スヘカラザルコト

五 肺結核其ノ他人ノ健康スヘキ病症アル者ハ同居スヘカラザルコト

第五條

本則ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

前項ノ制裁ハ何人ノ所爲ト雖モ營業者又ハ營業管理人ニ科ス

附 則

第六條 本則ハ明治三十七年七月一日ヨリ施行ス